

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患等政策研究事業）

分担研究報告書

研究分担者 泉知里（国立循環器病研究センター心臓血管内科部門・部長）

特発性心筋症に関する調査研究

研究要旨

抗ミトコンドリア抗体は、原発性胆汁性肝硬変において認められる自己抗体として知られているが、近年、炎症性筋炎の患者においても同抗体が認められることが報告され、「抗ミトコンドリア抗体陽性筋炎」と呼ばれている。原発性心筋症（特発性拡張型心筋症、肥大型心筋症など）と診断される症例の中に、抗ミトコンドリア抗体陽性例が存在している可能性がある。「抗ミトコンドリア抗体陽性筋炎」においては免疫抑制療法の有効性が示されていることから、そのような一群を同定することが、将来的に原発性心筋症に対する有効な治療につながる可能性があると考えられる。2012年～2013年の間に、当院にて心筋生検を行い原発性心筋症の診断に至った症例において抗ミトコンドリア抗体の陽性率と臨床的意義を検討する。

A. 研究目的

原発性心筋症と診断されている症例における、抗ミトコンドリア抗体の陽性率と臨床的意義の検討すること

B. 研究方法

2012年～2013年の間に、当院にて心筋生検を行い原発性心筋症の診断に至った症例において、バイオバンク検体を用い、抗ミトコンドリア抗体の陽性率とその臨床像を検討する。

（倫理面への配慮）

本研究では、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針に基づき、国立循環器病研究センター倫理委員会の承認を得た。同意についてはバイオバンク同意症例を対象としている。

C. 研究結果

現在解析継続中であるが、2012年から2013年の間に当センターにて心筋生検を実施した連続例のうち、原発性心筋症と診断した154例を対象とした。うち、抗核抗体は38例、抗ミトコンドリアM2抗体1例、こうセントロメア抗体1例で要請であった。今後症例数を増やしての検証を計画している。

D. 考察

原発性心筋症（特発性拡張型心筋症、肥大型心筋症な

ど）と診断される症例の中から、「抗ミトコンドリア抗体陽性筋炎」が抽出できれば、治療選択に寄与する可能性がある。

E. 結論

原発性心筋症（特発性拡張型心筋症、肥大型心筋症など）と診断される症例の中に、抗ミトコンドリア抗体陽性例が存在している可能性がある。

F. 健康危険情報

なし

G. 学会発表

1. 論文発表

2021年度はなし。論文投稿準備中。

2. 学会発表（発表誌面巻号・ページ・発行年等も記入）

2021年度はなし。

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定も含む）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし